

今泉地区

■ 基本的考え方

防潮堤 防潮堤・水門は12.5mで整備

○高田海岸の防潮堤(12.5m)、気仙川水門を整備する。

住宅 今回震災並みの津波による浸水可能性を考慮し、市街地嵩上げと高台移転による住宅再建

○防潮堤・水門の整備後であっても、今回震災並みの津波による浸水可能性が残されていること、気仙川河口部に近接し、津波到達までの時間的猶予が少ないことから、以下の方針で移転先を選定する。

- ① 低地部においては、今回震災並みの津波の浸水を免れるよう、土地区画整理事業等による嵩上げを検討。
- ② 西側丘陵部の開発により、高台移転地を確保する。
- ③ 埋蔵文化財(散布地除く)、寺社(墓)、景観、自然環境保全上重要な箇所(目につきやすい岬等)、急傾斜地、保安林等を避ける。

○災害公営住宅等集合住宅の整備を検討。

道路 市街地を通る新設橋梁、幹線道路の整備を要望

○三陸縦貫自動車道の避難用出入口や気仙大橋、新設橋梁、幹線道路の整備を要望するとともに、姉齒橋の整備を促進する。

○低地部から高台への避難を円滑に行えるよう、山裾への避難路を整備する。

土地利用 防災性や安全性、景観、歴史等に配慮した土地利用

○低地部に形成する新しい市街地は、土地区画整理事業等により嵩上げ等を行ったうえで、商業ゾーンを整備するとともに、住宅街の形成を図る。

○気仙川下流域の低地部は、農地、公園等に利用する。

公共施設等 公共施設の高台配置、歴史的な街並みの再生

○災害時における避難、機能の保全を考慮し、コミュニティセンター等の公共施設を高台に配置する。

○被災した消防屯所を移転、整備。

○気仙地域の中心として歴史的な記憶を後世に継承するため、今泉街道沿道における歴史文化が香る新しい街並みの形成と「けんかセタ」街道や大庄屋の復元等を図る。

○雨水ポンプ場及び気仙川への排水路の整備を図る。

○小学校・中学校は適正規模化計画にあわせて検討。

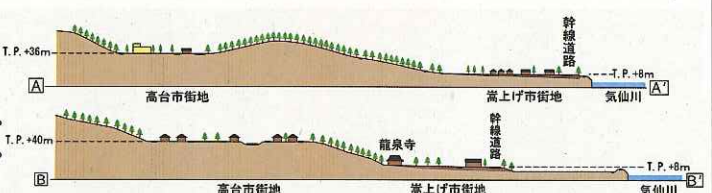
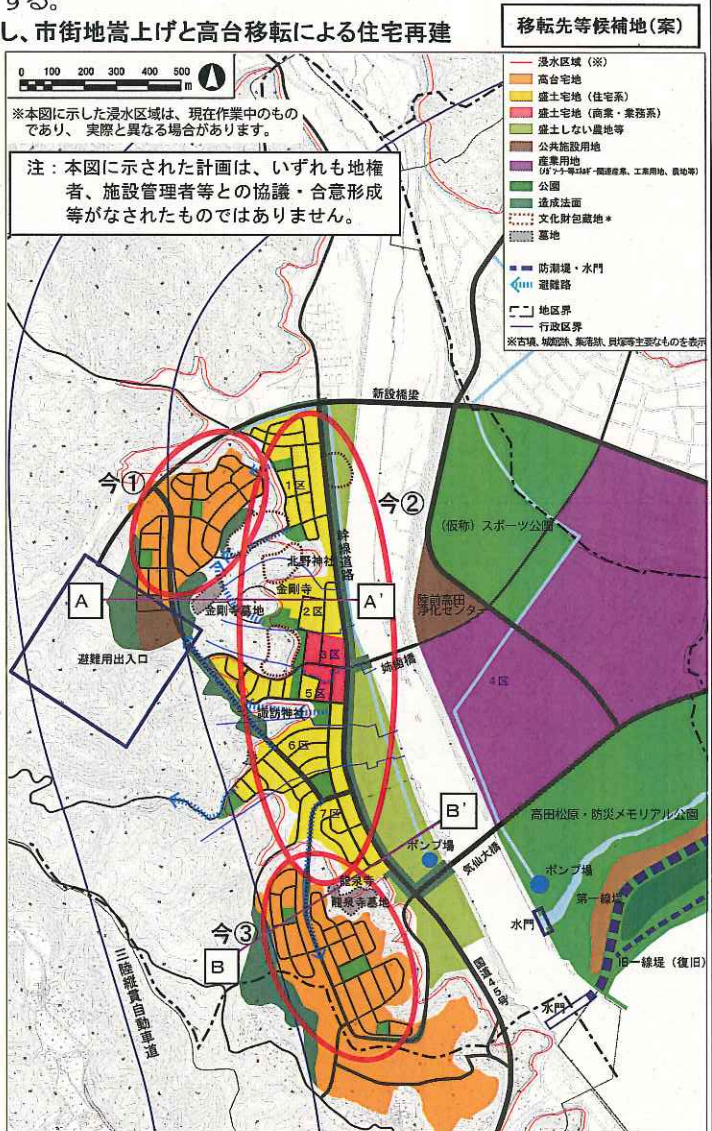


表 地区意向調査結果 ※7月11日市民意向現地調査結果

区	戸数	全半壊戸数	必要宅地面積(ha)	主要内容			移転先(案) (番号は上図と対応)
				住民の意向	移転候補地の情報	その他	
1区	65	64	2.6	高台への移転希望	中ヶ谷の山地		今①(高台移転)もしくは今②(嵩上げ区画整理)
2区	66	65	2.6	嵩上げた上で元の場所に戻りたい			今②(嵩上げ区画整理)
3区	40	40	1.6				今②(嵩上げ区画整理)
4区	126	121	4.8	現位置での住宅再建は希望しない			今①(高台移転)
5区	66	66	2.6			小中学校は地区の生活、文化の中心であり、学校の位置は重要。地区の歴史性を考慮したまちづくりにも留意	今②(嵩上げ区画整理)
6区	80	80	3.2	高齢化が進展しており、公営住宅に期待			今②(嵩上げ区画整理)もしくは今③(高台移転)
7区	157	156	6.2				今②(嵩上げ区画整理)もしくは今③(高台移転)
合計	600	592	23.7				

(備考) 必要宅地面積 = 全半壊戸数 × 400 m²/戸 ÷ (1 - 公共用地率(0.3))

※平成 23 年 11 月 10 日現在のものです。